

宝くじの助成金で備品を整備しました

平成26年度コミュニティ助成事業に採択された北金ヶ沢自治会、松神地区が、宝くじの助成金で備品を整備しました。

宝くじの社会貢献広報事業としてのコミュニティ助成事業は、今回整備したコミュニティ活動備品のほか、集会施設や地域文化の支援等に対して助成。地域のコミュニティ活動の充実・強化を図ることにより、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上を目的としています。



◇北金ヶ沢自治会

- ・除雪機 1台
- ・アルミブリッジ 1組
- ・刈払機 3台
- ・チェーンソー 1台



◇松神地区

- ・ミーティングチェア（畳用椅子）100脚
- ・除雪機 1台
- ・アルミブリッジ 1組
- ・刈払機 2台



町の取組状況について耳を傾ける

車座で地域問題を語り合う

10月15日、町長と一緒に町づくりについて考えるグループミーティングが、柳田農業環境改善センターで行われ、町政の状況や地区の抱える課題について理解を深めました。

今回は、地区老人クラブのやすらぎ会（米谷正実会長）や地域の高齢者32名が参加。吉田町長が若者定住住宅の建設や農業における複合経営の推進、林道の整備などについて講話した後、参加者と車座になって地区の問題を語り合いました。

膝を交えた語り合いでは、サル被害やカメムシの発生、医療の状況など、日常生活で感じていることをテーマに懇談。米谷会長からの避難路の整備や築棒沢林道の路線の見直し等の要望に対し、吉田町長は課題の解決に前向きな姿勢を見せていました。



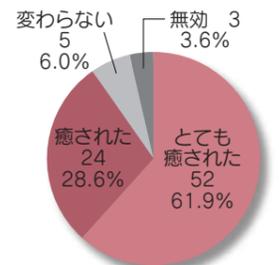
地区の問題をざっくばらんに語り合う



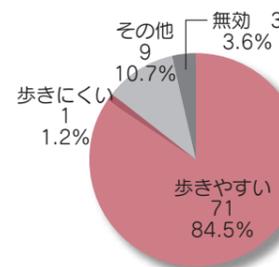
「十二湖の森」をチップスで快適に!

森林セラピー基地 アンケート結果 (7～9月実施)

十二湖散策での「癒し」



ウッドチップ遊歩道



7月に笹内川流域で回収したドロノキやヤナギなどの流倒木をウッドチップに加工した木造高校深浦校舎が、10月31日、森林セラピー基地である「十二湖の森」遊歩道でチップの敷き詰め作業を行いました。

この活動は、流倒木が要因となる土石流の低減と景観回復、さらに地元産樹種の地産地消による生態系維持を学ぶ環境防災学習の一環として、白神山地の生き物を観察する会（浜田哲二代表）が、同校に提案。趣旨に賛同した同校生徒と地元ガイドなど約80名が参加しました。

この日の活動に先立ち、同校生徒が十二湖地内で実施した森林セラピー基地アンケートによると、観光客の90%以上が、十二湖散策で癒しを体感。また、ウッドチップ遊歩道は80%以上の方が歩きやすいと回答しています。

晴天下で行われた作業は、3班に分かれた参加者が235袋

のチップを伸道の池周辺の遊歩道約1kmに敷設。環境に優しく歩きやすい遊歩道でさらなる誘客につなげようと、心地よい汗を流しました。

作業を終えた吉田ひな乃さん（2年）は「白神の木を使ったチップは、歩き心地も快適なので観光客が喜んでくれると思う。たくさん自然にふれて楽しかった」と笑顔で語り、サポートしてきた浜田代表は「白神の循環サイクルを知り、触れることで、生徒たちは見違えるほど生きいきしてきた」と、目を細めていました。

白神の流倒木を再利用する今回の活動は、十二湖の遊歩道の快適性向上のみならず、チップ化によるほのかな香りが、癒し効果につながるものと期待されています。木造高校深浦校舎では、今後も関係機関の協力を得て白神の理解を深め、快適な森づくり活動を続けることとしています。